資料３

飛行場に求められる役割とその実現に向けた整理

本日の論点

論点

（１）飛行場に求められる役割について

・安全な運航
・飛行場の位置づけ

（２）飛行場施設について

・施設の現状への対応
・地域が求める機能

飛行場に求められる役割とその実現に向けた整理（１）

１．飛行場のあり方とその対応

（１）安全で安定的な運航

・本土と島しょ（大島、新島、神津島、三宅島）を結ぶ唯一の空の玄関口であり、安全運航の確保のため、必要な施設の計画的な維持更新を実施するとともに、社会情勢に合わせた施設内容に見直していく
・離島航空路線の欠航リスク低減や運航の効率化に資する取組が必要

⇒　施設の老朽化対策に関する対応の検討を進めるとともに、離島航空路線の欠航リスク低減等につながる取組についても検討することが必要



出典：新中央航空ホームページ



（２）防災、医療、消防などの緊急活動の拠点

・広域輸送拠点に位置付けられている東京都地域防災計画に基づき、災害時には防災・医療・消防等の緊急活動拠点としての機能を発揮できるよう、運用面を考慮した防災機能の強化を図っていく

⇒・防災ヘリ用の荷捌きスペースの確保について検討が必要
・停電時でも72時間対応できる自家用発電機はあるが、最低限業務を継続できるよう、再生可能エネルギーを活用した補助的な電力供給施設などの検討を行うことが必要



防災活動拠点
（イメージ）
出典：東京消防庁ＨＰ



飛行場に求められる役割とその実現に向けた整理（２）

１．飛行場のあり方とその対応

（３）市民生活や利用者にもやさしい空間・機能

・空港が地域住民にとって身近で親しみやすい存在であるとともに、利用者に優しい空間・機能を充実させることが重要

⇒・「賑わいの創出」や「離島との交流」などの取組みについて、地元の声を聴きながら検討することが重要
・ターミナルのホスピタリティの向上等について検討することが重要

（４）技術の発展への対応と多摩地域の振興

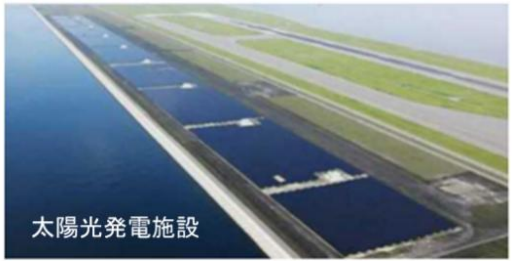
・技術進展の著しい航空技術の動向を注視し、公共の飛行場として地域の理解を得ながら取り入れていくことが重要

⇒・航空安全への活用
・多摩地域の振興への貢献等　将来求められる役割についても整理していく

（５）2030年カーボンハーフへの貢献

・温室効果ガス排出量に関する都の削減目標「2030年カーボンハーフ（2000年比）」に向けた脱炭素社会の取組として、空港運営においても環境負荷の低減を図っていく

⇒空港施設における省エネ機器への更新や空港車両のＥＶ化など、計画的な再生可能エネルギー等の導入検討を行うことが重要



出展：関西エアポート㈱、国土交通省

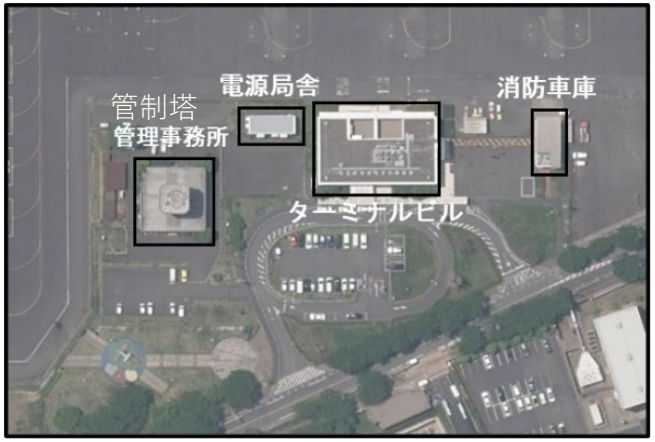


航空灯火のＬＥＤ化

飛行場に求められる役割とその実現に向けた整理（３）

２．空港施設の現状

都営化後30年以上経過し、一部施設の老朽化が進むとともに、飛行場を取り巻く社会情勢の大きな変化に対応した、時代に合った機能の付加について、検討が必要な状況である。



■管制塔 兼 管理事務所
- 築40年以上経過し劣化症状がみられ、老朽化対策が必要
- 執務スペースが手狭かつバリアフリー等が未対応



■ターミナルビル
- 築12年で老朽化対策は不要だが離島航空路線事務室が手狭



■電源局舎
- 築25年以上経過し老朽化対策が必要
- 非常用発電機が25年経過し更新必要



■消防車庫
- 築25年経過し老朽化対策が必要
- 施設が手狭であり計画的な更新要検討



■格納庫用地
- 定期運航路線用の整備・格納庫がない